

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 11 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104369		
法人名	社会福祉法人 光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田		
所在地	広島市東区牛田新町3-20-15 (電話) 082-211-3040		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104369-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

①保育園が事業所の階下にあるため、入居者と園児のふれ合いの機会を設けている。 又、保育園との交流行事に力を入れている。 ②隣接するグループホームとの交流行事に力を入れている。 ③外部の行事に参加し、地域との関わりを積極的に行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の運営母体は、グループホームの名称にもあるように、歴史ある光明寺の保育から始まった。現在の法人グループは、保育から高齢者施設まで、多岐にわたる福祉事業が展開されている。法人の「三宝一如」の理念も、発祥の歴史から、「子どもと高齢者と地域」「職員と家族」「広島光明学園」の有機的な結びつきを求めている。 この事業所も、その実践の一つとして、同じ敷地内に保育園が併設され、日々子どもたちとの交流の中から「元気と美しい表情と笑顔」を生み出しており、保育園と合同の「誕生日会」では、舞台と一緒に並んで、子供達から可愛いお祝いのことばとプレゼントを受け取り、歌の大合唱の中に利用者も加わり、双方にとって貴重な交流の場となっている。緑深い閑静な環境に恵まれ、地域住民の温かい支援も得て、時代に即した、活気に満ちた事業所運営がなされている。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念「三宝一如」と、グループホームの理念そのものが地域密着を目指している。地域行事への参加等を通じ、実践につなげている。	法人理念「三宝一如」と事業所理念を毎日唱和している。月1回の事業所会議では、毎月の行動指針を提起し、実践している。「笑顔」を接遇の基本に、利用者、訪問客に向けその実践を図っている。法人理事長が提唱の「本物をやろう…！」との、探求心を伴う大きなテーマに、全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事に参加させていただいたり、散歩や買い物等に参加して頂く事で、地域の方々とおふれ合いを持っている。又、その行事の案内等ある際には声をかけて頂いている。	町内会、住民組織等との良好な関係を築き、各種町内行事の情報交換も適切に行われている。地元消防団との交流や運営推進会議への参加を得て、日々の散歩や買い物の際の挨拶など自然な交流もあり、利用者が地域の生活者として容認されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事や法人行事に参加し、地域の方々との交流を通じて、認知症のご利用者様と触れ合って頂き、認知症への認識を深めて頂いている。又、認知症サポーター養成講座へ参加し、地域の方へ認知症について話す機会を設けることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様、民生委員、地域包括支援センターの職員を招き、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。例えば、感染症拡大防止の為に、来場者への対応をどのようにしていくか、検討していく必要があるとの助言を頂き、それに向け、来場者には手洗い、うがいをお願いするよう働き掛けを実施している。	この会議に家族、民生委員、地域包括支援センターの職員も参加している。感染症対策や看取り対策、防災体制など、事業所の運営に関する活発な討議が行なわれている。この外部評価の結果も組上に挙げ、改善に繋げている。欠席した家族には会議の議事録を送付し、情報共有を図っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告を、開催後に介護保険課へ送付している。その他に、生活保護についての事や、ご利用者の困っている事等（ショートステイの利用についてや住所変更の手続きについて等）を、電話にて相談を受けることもある。	運営推進会議の報告のほか、認知症サポーター養成講座など、行政の事業にも協力している。また、成年後見制度や生活保護制度など、行政から積極的な情報提供を受けることにより、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関に施錠はしていない。身体拘束については、施設内研修を開催し、研修で得た情報を職員全体で共有している。日頃から、拘束行為に当てはまる「ちょっと待って」等の声掛けにも、その都度、職員に対し、注意を促している。新人職員の入社時には管理者から、身体拘束についてのオリエンテーションを行っている。	この事業所の特徴の一つ、保育園との併設で一体的な建物構造のため、防犯上、保育園の出入り口には施錠はあるが、事業所の玄関には施錠はされていない。管理者が日頃から徹底し、言葉による拘束（スピーチロック）にも注意を払い、定期的な研修で意識統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修を開催し、研修で得た情報を職員全体で共有している。職員の発言等にも充分注意を払い、防止に努めている。新入職員の入職時には管理者から、虐待についてのオリエンテーションを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修にて、権利擁護について学ぶ機会を設けている。「かけはし」を利用されている方もおり、職員も担当者とのやり取りの中でその必要性を学ぶ事も多い。成年後見制度については、今後、利用予定の方もおられるため、座学だけでなく、利用ケースから学ぶ機会を持ち、知識を深めていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項の説明をさせて頂き、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・要望を受け付けているが、なかなか書面での受け取りは難しい為、来所された際に、気づきや要望等を伺い、介護サービス計画書や運営面に反映させている。	本人の何気ない表情やしぐさから、思いや要望をくみ取り、そのニーズに対応している。家族には、運営推進会議録を継続的に送付するほか、ケアプラン作成時や面会時に意見、要望を聴取し、事業所の円滑な運営に反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	担当学会議、職員会議の開催にて職員の意見を聞く。又、発言が少ない職員へはアンケートや書面にて意見を求め、サービスへ反映できるよう取り組んでいる。	管理者自身の現場体験から、会議で発言が少ない職員の気持ちに配慮し、事前にアンケート用紙を全員に配布し、記述による意見の提出を図っている。会議では、その小さな声にも耳を傾け、協議し、運営に反映させ、職場の活性化につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休暇をシフトに反映させ、できる限り、業務を離れてのストレスの軽減が図れるように配慮している。超過勤務時間の時間外手当の支給や、時間調整等を行い、できる限りストレスの軽減に努めている。10月に人事考課を取り入れ、各自の目標設定を行い、やりがいに繋がるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個別に面談を実施し、職員個々の施設内研修への参加や、施設外への研修への参加を促し、職員の知識が向上するよう努めている。又、日常的に新人職員へ声をかけ、迷いや分からない事へのアドバイス、技術指導を行っている。事業所会議では、ご利用者の介助方法についての勉強会を行う事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	施設外研修に参加を促し、同業者との交流機会を作っている。施設内研修では、グループワークを中心に開催し、他事業所とのディスカッションや、意見交換などを実施し、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面談し、アセスメント、担当学会議を通じ、ご本人の思い等を把握できるよう取り組み、安心してサービスの利用に繋がるよう、しっかりと会話をしながら、良い関係が築けるよう取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談に来られた際には、ご家族の抱える不安や悩みを聴きながら、お話をさせて頂くようにしている。サービスの利用についての要望等は、定期的に声をかけさせていただき、介護計画書へ反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	救急時については、医療機関との連携を密にするよう努め、通いながれた病院への継続した通院を希望の時には、その医療機関と連携し、口腔内に問題を抱え、治療が必要であれば、歯科の居宅療養管理指導を利用している。その他、訪問マッサージの利用等他のサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	担当者会議や職員会議にて、ご本人のできることを見極め、話し合い、ご利用者ができる事をご自身で行えるよう支援させて頂いている。その他にも、調理の手伝いや、台ふき、洗濯干しや洗濯たたみ等ご自身ができる事を職員と一緒に実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来所された際には、気づき等をお聞きしながら、ご本人様がよりよい生活を送って頂くためには、ご家族様の協力が必要である旨を常にお話している。また来て頂けるように元氣良く、気持ち良い挨拶での迎え入れや送り出しを心掛けるよう指導している。ご家族が来所してからも、くつろぎながらご本人様と会話して頂けるよう、一緒にお茶を飲んで頂いたり、食事の介助をして頂いたり、一緒にご本人をお支えできる関係性が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事に参加して頂き、なじみの方々との交流が途切れないよう支援させて頂き、通いながれた病院に、知人や友人が多数いらっしゃる方へは、定期的に受診の支援をさせて頂き、友人のところへ外出を希望される方には、ご家族了承のもと、外出の支援をさせて頂き、お墓参り等を希望されれば、お連れさせて頂き、できる限り関係性が途切れないように努めている。	利用者が入居前によく行っていた馴染みのスーパーに出かけたり、昔の知人に会いに行っているほか、知人の来訪もあり、事業所もそれに協力するなど、本人がそれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々ご利用者との良好な関係が続き、職員も会話の架け橋となるよう間に入り、会話の支援を行い、レクリエーションの開催等により、笑顔で皆さまが関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後でも、相談の連絡が入れば対応している。例えば、契約終了後でも電話連絡し、ご家族の様子をうかがいながら、グループホームで撮影した写真をお送りしたり、病院へ転院された後にも電話連絡をさせて頂き、ご本人の様子も含め、ご家族の体調等への配慮のお声かけをさせて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当者会議や、事業所の会議にて本人、ご家族の意向を踏まえながら、生活がよりよいものとなるように努めている。困難な場合においても、職員で話し合い、できる限り最善のサービス提供ができるよう努めている。	本人の何気ないしぐさや行動を踏まえ、介護計画の際に反映させている。日ごろから職員が本人の観察を行い、事業所会議でも議題で取り上げることで、職員間で認識を共有し、本人本位に検討し、日常の対応に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前に事前調査を行い、ご家族やご本人から、アセスメントによる情報の把握に努めている。サービス利用開始後も日常会話の中等で情報収集を行い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者との日々のコミュニケーション、日常生活の動作、ご家族とのやり取りの中等でアセスメントし、現状の把握に努め、職員間で情報の共有ができるように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員で話合った事を、ご家族と一緒に再度検討し、必要に応じて、医師や訪問歯科医、マッサージ施術士と連携をとり、現状に即した介護計画書の作成に努めている。	職員間で討議した事項を、家族と共に再度検討し、書面化された医師や訪問歯科医等の具体的指導内容と照合し、より具体的な介護計画としている。日常的な介護においては、モニタリングシートの実施状況をチェックし、現状に即した柔軟な編成に留意している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録だけではなく、担当者会議、事業所会議、ひやり・はっと報告書、事故報告書等をもとに、サービス内容の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	気持ちが落ち着かない場合には、ご家族の自宅にお送りし、過ごして頂いたり、ご家族了承のもと、昔からの知り合いに会う為にお連れし、一緒に過ごして頂く等の取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	階下に位置する保育園の園児さんとのふれあいや、地域行事への参加、日常生活での散歩や買い物等の外出への支援により、外での生活の充実を図り、日常生活でのレクリエーションや個別レクリエーションの提供により、日常生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	昔から通っている病院への受診を希望される場合には、そこへの通院の支援を行い、新たに希望された場合においても、通院の支援を行っている。	この事業所は男性職員の在籍数が多く、本人が希望する医療機関の受診も、その機動力を生かし、家族に代わっての迅速な対応が特徴である。本人や家族が納得する「かかりつけ医」との連携強化と適切な医療受診体制を整備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	提携病院の医師、看護師、訪問看護職員へ、日々の症状報告書をお送り、情報の共有を図っている。必要時には連絡、相談にて連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や連携室等と連携をし、入院時には定期的な面会にて看護師と面談し、状態の把握、ご家族への連絡等、話し合いの場を設け、協議しながら万が一に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	面会の際等に定期的に現状報告しながら、事業所としての提供できる限界について等を説明しながら話し合い、ご家族にご理解を頂けるよう取り組んでいる。また、継続した医療が必要となった場合等には、主治医や入院先の主治医者に相談しながら、連携を図り、チームでの支援に取り組んでいる。	あらかじめ事業所で対応可能な範囲を家族によく説明し、主治医と連携を図りながら、チームで対応する体制としている。目下、法人内の訪問看護ステーションとの連携強化など、「看取り体制」の強化をすべく体制を整備中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜間帯の急変に備え、特に新入職員への緊急時の対応について、説明しながら、実際に管理者が利用者の急変を演じ、新入職員が対応する訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月1回避難訓練を実施し、災害発生時に備えて、訓練を行っている。階下の保育園と隣接するグループホームとの連携を確認しながら、実践力が身につくよう取り組んでいる。	消防署の指導を踏まえ、月1回の避難訓練では、地震や火事、水害など時宜にかなった内容としている。階下の保育園との合同訓練で、職員間の連携強化と地域住民や家族の参加も得て、実効性のある訓練としている。非常食の備蓄一覧表も事業所内に掲示し、防災体制を強化している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ほんの些細な声掛けから注意をし、そぐわない場合においては注意を促し、日頃からプライバシーや尊厳を大切にしよう、職員への声かけを実践している。	職員の声掛けについては、管理者が随時指導を行い、改善が見られない場合は会議で取り上げ、一人ひとりの人格の尊重を踏まえた対応に向け、改善へ強化を図っている。各居室の扉の開閉についても、プライバシーに配慮するよう、きめ細かい指導が行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行動する場合においては、必ず、本人の意向を確認するよう取り組んでいる。答える事が難しい方でも、まずは選択肢を設け、声掛けを行い、返答が難しい場合は ～で宜しいですか？等自己決定して頂けるような声掛けを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先にならないよう、常に職員同士が声掛けを行っている。レクリエーションを提供する際には、個別レクリエーションを中心に、一人ひとり希望を選んで頂き、気が向かない人には、日光浴や新聞の提供、音楽番組の鑑賞等、その人が望まれる事を提供している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣時には、服を必ず自身で選んで頂く取り組みをしている。外出時、化粧を望まれる方には、女性職員が手伝い等の支援を行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	協力して頂ける時には、料理の準備～片付けまで、利用者と一緒に行っている。食事前に体操を実施し、軽く身体を動かして、食事をして頂いている。準備の手伝いが難しい方には、音楽をかけ、個別にメニューの説明を、どの食事から召上るかを確認しながら提供させて頂き、食事を少しでも美味しく感じて頂けるよう取り組んでいる。	通常の調理は、別室で専門の調理員が担当している。日曜・祝日の朝食は、事業所内で調理をし、食事の準備が可能な利用者の協力を得ている。食事前には、職員の創意工夫によるラジオ体操や口腔体操、音楽や会話など、食欲増進と誤嚥防止への職員の気配りが観察された。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量を確認しながら、少ない方へは飲み物の提供方法、好みの飲み物の提供等を個別に配慮し、確保に努めている。食事に関しても、形態の調整（むすびや半粥）等、個別に対応しながら、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアを一人ひとりして頂ける取り組みを行っている。個々に合ったケアを提供し、状態により、訪問歯科のドクターに指示を仰ぎながら、口腔内の衛生が保てるよう取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	基本的にはトイレ誘導により、トイレでの排泄を皆様にして頂けるよう、支援させて頂いている。	排泄チェック表を使用し、トイレ誘導を行い、排泄チェックと合わせ、水分チェックも行っている。結果、紙パンツとパットの利用はあるものの、オムツを使用する利用者はいないなど、排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維の摂取、適度な運動、水分量の確保等により、便秘がないよう取り組みをしている。下剤の使用をされていた方々が下剤を内服せず排便がみられるようになったケースも多い。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	要望を確認し、選択をして頂いている。一番風呂がお好きな方、二番風呂がお好きな方、いつ入ってもいい方等、色々な希望をされるが、一人ひとりに声をかけ、入浴の気分でない場合には、日程を変更したりの調整をしている。	週2～3回、定期的に入浴を介助しているほか、希望者はその都度入浴をもらっている。また、入浴の順番も利用者の希望や状態に合わせて対応しており、その日の利用者の希望に応じて、柔軟に対応できる仕組みを整えている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりに合わせた、休息を 提供している。日中の体力面に 配慮し、活動後の休息を取り入 れ、無理がないように支援させ て頂いている。夜間についても、 ほどよい活動を促し、眠れない 時には、気分が落ち着くよう、 会話をしながら、飲み物を提 供したり、安眠に繋がるよう支 援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬マニュアルに沿って支援し ている。日々の体調に配慮し、 主治医へ報告、相談をしながら 、追加される薬等についても服 作用等、職員が周知できるよう 申し送り、体調の変化に注意で きる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	レクリエーションの実施が、楽 しみに繋がるよう支援をしてい る。又、個別に得意なレクリエ ーションや、ベランダや園庭で 外気に触れる事等、気分転換に 繋がる支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	計画を立てたお墓参りへの支援 や、希望時になじみの店への買 い物への支援を通じ、地域の方 との繋がりが続くよう支援をし ている。又、希望時の外食への 支援や、ご家族とも協力し、一 緒に外出できるよう支援を行っ ている。	通院のついでに、スーパーや本 屋、墓参り、ファミリーレスト ラン、料亭など、要望に応じて 、一度の外出機会を幅広く活用 している。隣接する事業所と車 を共用し、相互連携と男性職員 の機動力を活かし、利用者の要 望に柔軟に対応できる体制にあ ることが、当グループホームの 一つの特徴である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	金銭に関しては、基本的にはご 家族が管理されている。数名の かけはしを利用されている方が おられ、自身で管理され、希望 時の外出等で使用されておられ る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には、グループホームの電話にてご家族に電話されたり、手紙を書かれた場合には、職員と一緒にポストへ投函しに行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、ご利用者と一緒に季節の飾りを作り、それを飾る等工夫している。又、トイレには、自動消臭剤の噴霧器を取り付けて匂いに配慮し、食事時には、音楽をかける等、少しでも居心地よく過ごせるための配慮をしている。	廊下への利用者の活動状況の写真の掲示や、広いベランダに加え、屋上の開放感、山すその自然環境を縦横に採りこんだ設計は、四季の移ろいを映す好環境にある。特に、建物内の臭気に配慮し、自動消臭剤の噴霧器の設置など、快適な共有空間づくりへの工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の際には固定した席配置だが、その他については、自由席とし、気の合う方の隣に行かれたり、自由に使用して頂いている。一人の空間については、リクライニングチェアや、ベランダの椅子等に座って頂き、くつろぐ空間として利用して頂く工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談し、使い慣れた物を持ってきて頂き、配置、使用して頂いている。その他にも、ご自身で作った作品や、職員からのプレゼント、ご家族からの持参品等、ご本人の家という感覚で、自由に飾って頂いている。	各居室内には使い慣れた家具、ヒーター、電気カーペット、CDコンポなど、生活歴に応じた調度品が自由に設置されている。また、利用者の作品や職員と共に作成した作品を置き、自宅感覚で居心地よく過ごせる環境整備には、職員の「本物の福祉の志向」の一端が現れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	テレビのリモコンを自由に使用して頂いたり、ティッシュを席に配置し（集められる方がいても）自由に使用して頂いたり、カウンターにお茶を設置し、できる方は自身でお茶を入れらたりしている。手すりの設置も多く、そこをつたいながら歩かれる方も多い。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田

作成日 平成29年1月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族の参加はあるが、限られた家族の参加しかない。	多数の家族の参加が出来る。	事前案内にて、日程調整を行う。	1年
2	13	新入職員への指導にばらつきがある。	指導に統一感が持てる。	業務内容、技術面の職員の意識のすり合わせ。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。